

第 4 部

附属資料

現状と課題のまとめ

	① 市民と行政の協働による「新しい公共」の領域の拡充	② 行政マネジメントシステムの機能強化と効果的運用	③ まちの個性を生かし、高めていくまちづくり（宝塚ブランドの強化）	④ 子どもたちの成長を地域全体で支えるまちづくり	⑤ すべての市民が、安心を実感できるまちづくり	⑥ 環境の保全と、循環型社会の構築に向けたまちづくり	⑦ 超高齢社会に対応したまちづくり
<p>社会経済情勢</p> <p>人口推計</p> <p>財政状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンやSNSの普及など、ICTのめざましい進歩 ●市民参加や協働を促進するオープンデータ、ビッグデータの活用の広がり ●市民活動の主体の多様化 ●市民との防災・災害情報の即時共有、地域との連携による速やかな避難所開設の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ●地方分権改革の推進による基礎自治体としての役割の一層の高まり ●高齢化の進行による社会保障費の増大、人口減少への転換による収入の確保対策 ●社会保障関連経費の増、老朽化する公共施設の整備や耐震化など、財政需要を押し上げる要因の山積 ●市民参加や協働を促進するオープンデータ、ビッグデータの活用の広がり ●平成28年(2016年)に予定される社会保障制度・税番号制度(マイナンバー)の利用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少社会における都市間競争の激化 ●選ばれるまちとしての、都市価値の向上と戦略的情報発信、住民の愛着度向上の必要性(シティプロモーション) ●工業製造品出荷額、工業従業者数の減 ●商店数、商品販売額、従業者数の減 ●観光客数の伸び悩み、新たな観光集客施設整備への期待 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども・子育て新制度の本格実施 ●少子化の進行 ●子育て世代の定住、転入を目指した、安心して子育てできるまちづくりの推進及びPRの必要性 ●いじめ、不登校、児童虐待の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災発生以降の安全・安心に対する意識の高まり ●東日本大震災の教訓を踏まえた、自助、共助の促進による地域の防災力の強化の必要性 ●南海トラフ巨大地震発生の想定 ●集中豪雨の多発化など、自然災害の激甚化 ●市民との防災・災害情報の即時共有、地域との連携による速やかな避難所開設の必要性 ●新たな感染症の発生への恐れ ●悪質な犯罪の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化など地球環境悪化の危惧、それに伴う環境への関心の高まり ●福島第一原子力発電所の事故に伴う、再生可能エネルギー転換による環境負荷の少ない持続可能な社会づくりへの期待 	<ul style="list-style-type: none"> ●4人に1人が高齢者に(平成26年度) ●超高齢社会の着実な進行、それに伴う社会システムへの影響(財政、医療、福祉、産業、防災、防犯、住居、交通、情報化等) ●健康づくり、介護予防の推進の必要性 ●高齢者の社会参加、いきがいつくりの推進による地域の担い手としての活用
市民アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> ●協働でまちづくりを進めるため必要なこと(上位順) ・行政の分かりやすい情報提供 ・市民の提案、意見が反映される仕組みの充実 ・市民のまちづくりへの参加意識 ・市民参画の機会の提供 ・市民活動や地域活動に必要な仕組みや場所の充実 ●市民活動や地域活動などへの参加意向が低下 ●協働の指針の認知度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ●重要度が高く、満足度が低い施策に「行財政運営」 ●必要な行財政改革(上位順) ・職員数や給与の適正化 ・公共事業の見直しや経費の削減 ・市税などの滞納金の徴収率の向上 ・民間委託の積極的な導入 ●公共施設の整備や管理運営の方向性(上位順) ・全体数を現状維持(34.5%) ・必要性や人口規模に合わせて公共施設を減らしていく(30.3%) ・現状、公共施設は不足。増やしていく(18.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●住み続けたい理由(上位順) ・交通の利便性 ・住環境 ・自然環境・景観 ・都市イメージの良さ ●まちの魅力(上位順) ・宝塚歌劇等の芸術・文化 ・自然環境 ・神社仏閣 ・園芸・植木産業 ・閑静な住宅地 ●理想とする宝塚の上位に「観光で多くの人が訪れる都市」 ●重要度が高く、満足度が低い施策に「商業・サービス業・工業」 ●満足度の低い施策に「観光」 	<ul style="list-style-type: none"> ●理想とする宝塚の上位に「子育て支援や児童に対する福祉の充実した都市」 	<ul style="list-style-type: none"> ●理想とする宝塚(上位順) ・災害に強い都市(5年前の調査での4位から1位に) ・医療施設、サービスが充実した都市 ・高齢者、障がいのある人に対する福祉が充実した都市 ・防犯、交通安全等の取り組みが進んでいる都市 ●重要度が高く、満足度が低い施策に「危機管理」、「道路・交通」 ●重要度が高い施策に「防災・消防」、「保健・医療」、「社会保障」 	<ul style="list-style-type: none"> ●住み続けたい理由の上位に「自然環境・景観」 ●まちの魅力の上位に「自然環境」 	<ul style="list-style-type: none"> ●理想とする宝塚の上位に「高齢者、障がいのある人に対する福祉が充実した都市」 ●重要度が高い施策に「高齢者福祉」
前中期基本計画の評価	<ul style="list-style-type: none"> ●市協働の指針を策定。市協働のまちづくり促進委員会を設置し、同指針のマニュアル及び効果的な協働の仕組みを検討 【課題】 ●まちづくりを担う人材の育成が必要 ●市民と行政がまちづくりに関して意見交換する場の活性化の必要性 ●協働の進展に伴う、行政の組織体制を含めた仕組みづくりが必要 ●ICTの利活用による情報共有が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●行政評価に外部評価を導入 ●公共施設マネジメント基本方針を策定 【課題】 ●協働の進展に伴う、行政の組織体制を含めた仕組みづくりが必要 ●戦略的な都市経営を行うための職員の能力向上が必要 ●ICTの利活用による市民との情報共有が必要 ●ICTの利活用による効率化、効果的な行財政運営が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●トリプル周年に合わせた観光キャンペーン、イベント開催により、市の魅力を内外に発信 ●観光集客戦略を策定 ●「モノ・コト・バ」事業により宝塚ブランドを選定 ●景観計画を策定 【課題】 ●宝塚ブランドのブランド力の強化、戦略的な情報発信が必要 ●観光集客の増をめざした観光資源の魅力向上、効果的活用が必要 ●宝塚ガーデンフィールズ跡地の有効活用が必要 ●良質な住宅ストックの活用が必要 ●北部地域におけるスマートインターチェンジ、サービスエリアの活用、他地域との連携による活性化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育所の整備・幼保連携、地域児童育成会等の充実による待機児童解消に向けた取り組みを推進 ●放課後子ども教室の拡充、スクールソーシャルワーカーの導入など青少年の育成、支援を推進 ●スクールサポーター、子ども支援サポーター、学校図書館司書の配置の拡充など教育環境を向上 ●子どもの権利サポート委員会を設置、いじめの防止等に関する条例を制定 【課題】 ●子ども・子育て支援事業計画に基づく、子ども・子育て支援新制度への対応が必要 ●子どもの居場所づくりが必要 ●児童虐待防止の強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●市危機管理指針を策定 ●市災害時要援護者支援指針を策定 ●川西市及び猪名川町と消防指令業務共同運用事業を開始 ●市自転車の安全利用に関する条例を制定 【課題】 ●災害時要援護者に対する支援体制の整備が必要 ●災害に備えた多様な情報伝達方法の確保が必要 ●職員の危機対応能力の向上が必要 ●地域の特性に応じた公共交通の確保が必要 ●浸水被害が発生しやすい地域への早期対応が必要 ●地域で支援が必要な人へのネットワークづくりの推進が必要 ●生活困窮者自立法施行に伴う対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●新エネルギー推進課を設置し、市民との協働による再生可能エネルギー導入を推進 ●宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例を制定、宝塚エネルギー2050ビジョンを策定(予定) 【課題】 ●市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例、宝塚エネルギー2050ビジョン(策定予定)に基づく取り組みの推進が必要 ●事業者への分別徹底の周知や搬入指導等によるごみの減量・資源化の推進が必要 ●市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例に基づく取り組みの推進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括ケアシステム構築を検討 ●高齢者の見守りネットワークを充実 ●エイジフレンドリーシティ行動計画策定を検討 ●道路のバリアフリー化を推進 【課題】 ●すべての人にやさしい歩道や安全で快適な道路、施設の整備の計画的な推進が必要 ●地域包括ケアシステムの早期構築が必要 ●高齢者の社会参加、就労、いきがいつくりの支援が必要 ●地域における高齢者の介護予防活動への支援が必要 ●エイジフレンドリーシティの基本理念を取り入れたまちづくりの必要性 ●高齢者の消費生活トラブルへの対応が必要